



私たちは  
ノースネット青少年です。  
《東近江市青少年育成市民会議能登川支部》

# あいさつ運動

1日目標 10人以上



## 運動会・体育祭



にじいろ幼稚園 運動会 能登川南小学校 運動会

## 二十歳のつどい



新年最初の「あいさつ運動」  
成人おめでとうございます  
(能登川コミュニティセンター)

## 3学期始業日



能登川東小学校 能登川西小学校

## ごあいさつ

東近江市青少年育成市民会議  
能登川支部 支部長 田井中 与弘



平素は、青少年育成市民会議能登川支部の活動にご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

コロナ禍の長い間、制限された生活により、人と人とのつながりの大切さが身に染みる3年でした。

さて、青少年育成市民会議能登川支部は、「地域の子どもは、地域で守り育てる」を合(愛)言葉に、今年度も次世代を担う青少年の健全育成を目的に「あいさつ運動」を活動の柱とし「愛のパトロール」「青少年育成大会」など様々な活動を展開してきました。

6月に開催した、人権のまちづくり協議会との「合同研修会」は昨年に引き続き2回目となり、今後も継続していきたいと思えます。また、11月に開催した「青少年育成大会」の両事業ともに能登川中学校吹奏楽部の素晴らしい演奏をいただき、回を重ねるごとに成長する生徒の姿に感動しました。

当支部の活動は「継続の力」「地域の力」を合わせていきたいと思えます。どうぞ今年も市民の皆様のご温かいご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

## 愛のパトロール



地域の皆さまご協力ありがとうございました。

各種団体の皆さまのご協力をえて、パトロールを行っております。

「安全・安心のまちづくり」を目指し、今年も引き続きパトロールをまいります。

## 電柱幕の交換



古くなった電柱幕の交換をしました。街で古くなった電柱幕を見かけたら事務局までご連絡ください。

## ありがとうございました



公益財団法人五峰興風会様から助成いただき、「あいさつ運動啓発ポスター」応募参加賞の購入と「ふれあいラジオ体操カード」を作成しました。



能登川  
地区



# 青少年育成大会



## 開 会

新型コロナウイルスの5類移行後初めての育成大会となり、約300名の地域のみなさま



**司 会**  
能登川中学校3年生  
大森 岳 さん・西村 菜花 さん



**開会あいさつ**  
青少年育成市民会議  
能登川支部長  
田井中 与弘



**来賓あいさつ**  
能登川支所長  
谷口 哲雄 氏

## 表彰式

### 善行者表彰

親切や思いやりのある行い(善行)をした青少年を表彰しました。



能登川北小学校6年 樺澤 眞白 さん  
能登川中学校3年 川上 獅温 さん  
能登川中学校3年 小嶋 倫大朗 さん

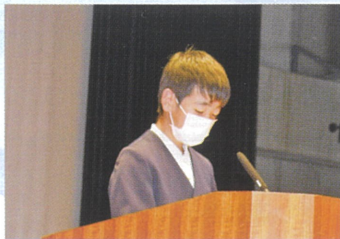
### 「あいさつ運動」啓発ポスター表彰

能登川中学校の生徒を対象に「あいさつ運動」の啓発ポスターを募集し、今から、最優秀賞、優秀賞、入賞の計10名の入選者を表彰しました。  
また、奨励賞を含む20点を1階ロビーにて展示しました。



## 青少年の主張

能登川地区の4小学校、能登川中学校、能登川高等学校を代表して、家族や友達との関わりの中で感じたことや自分の思い、未来への希望や夢などを発表していただきました。



能登川東小学校6年  
森 駿平 さん  
「自然をのこす」



能登川西小学校6年  
中村 百々心 さん  
「西小学校の児童会の取り組みを通して」



能登川南小学校6年  
勝間 沙和 さん  
「あいさつで心をポカポカに」



能登川北小学校6年  
吉備 伊臣 さん  
「ウクライナとロシアの戦争について」



# ～ 大人が変われば子どもも変わる ～

令和5年1月4日(土)に能登川コミュニティセンターホールにおいて、家庭・学校・地域が連携して、青少年の健全育成に取り組むことを目的に開催しました。

の参加をいただきました。



来賓あいさつ  
滋賀県議会議員  
加藤 誠一氏

年は222点の応募の中



## 一言メッセージ

能登川地区の4小学校6年生と能登川中学校3年生による、一言メッセージを展示しました。



## 演奏会

「アイドル」や「YMCA」など人気曲を演奏。来場者は手拍子をしたり、リズムに合わせて振り付けをしたりと、演奏会は盛会裏に終えることができました。



能登川中学校3年  
豊満 友貴さん  
「経験から持てた夢」



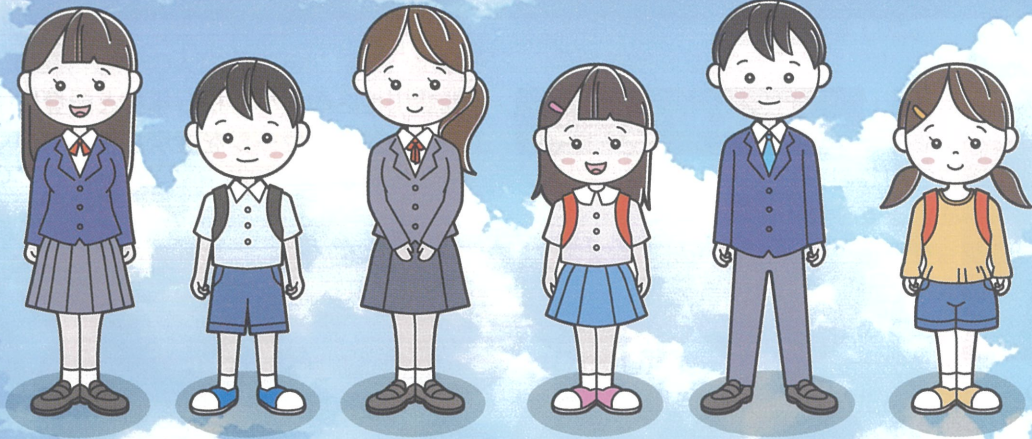
能登川高等学校2年  
中嶋 彩乃さん  
「生徒会執行部としての一年半」



能登川中学校 吹奏楽部



# 青少年の主張作文 優秀作品



## 経験から持てた夢

能登川中学校3年 豊満 友貴さん

僕の夢は、アトピーの治療をメインとした薬剤師になることです。そこには、自分自身がアトピーであることが大きく関わっています。

アトピーとは、アトピー性皮膚炎の略で、顔や身体にかゆみを伴う湿疹が現れて、良くなったり悪くなったりを慢性的に繰り返す病気のことです。このようなアトピーの症状は、見た目に関わってくることで、周りの視線が気になることがあります。また、アトピーというだけでいじめを受ける人も多くいるそうです。僕は、いじめを受けてはいませんが、症状は出ています。薬剤師として、アトピーによるしんどさや苦しさ、周囲の視線が気になる気持ちなどに寄り添い、共感しながら、患者さんと共に治療をしていきたいなと思っています。

しかし、アトピーの治療方法というものは定まっていません。僕はアトピーになって3つの病院に行きましたが、いずれも治療方法は異なります。特に、今の病院と、これまでの病院の治療方法は正反対と言っていいほど対照的です。今行っている治療は、悪いもの全て出し切るために、出す力を高める薬を飲んでいきます。その代わりに症状はひどくなるというものです。実際に、症状がひどく、夜も眠れないことがありました。これまでの治療は、症状を抑える薬を塗って、その薬を塗る間隔をあけていくというものでした。前の治療を一年続けても、治っていく感覚はありませんでした。しかし、今の治療方法では少しずつ治っている感覚があります。どの治療方法が正解かはわ

かっていませんが、だからこそ、患者さんと共に、その人にとって一番いい治療方法を見つけたいと思っています。

最近、アトピーの人が年々増えていっているというのを聞きました。実際、昭和の時代では、アトピーの人はほとんどいませんでした。しかし、日本の経済成長に伴い、化学物質などが増えていきました。その結果、環境が汚染され、アトピーの人が増えているというのが現状です。僕自身が、アトピーのつらさやしんどさをよく知っているのも、アトピーになって苦しい思いをする人が増えてほしくないという思いが強いからです。だからこそ、自分の力で、アトピーの人を一人でも減らせればいいと思います。

僕が今、担当してもらっている薬剤師さんがいます。その人も、アトピーを経験していたそうです。アトピーを経験し、そこから薬剤師になって、多くのアトピーの人を治していく姿には、自分の夢と重なる部分が多くあり、憧れがあります。自分はまだ治してもらっている側の立場にいますが、早く治して、その薬剤師さんと同じような、治す側の立場になれたらいいなと思っています。

薬剤師という職業は、社会的にも重要で、そして大きな責任も伴う大変な仕事です。そのため、簡単になれるものではありません。アトピーでつらい思いをしてきましたが、それよりももっとつらい思いをするかもしれません。それでも、僕の「アトピーの人を救いたい」という思いは変わりません。まずは、自分のアトピーを治して、一人でも多くのアトピーの人を救える薬剤師になります。



## 自然をのこす

能登川東小学校6年 森 駿平 さん

みなさんは自然をのこしていきたいと思ったことはありませんか。ぼくは、能登川の自然をのこしていくことが大切だと考えます。

自然というのを「森林」や「山」とすると木は二酸化炭素をすってくれます。そして酸素をはい出します。それは、かん境を良くすることにつながります。杉の木一本あると、一年間で25mプール、1～3個分ぐらい二酸化炭素をきゅうしゅうするというデータもあります。

他に自然をのこしていくといろいろな動植物がすめることにもつながります。能登川にはたくさんの生き物、植物が生息しています。中には絶滅つぐ種などの希少な生き物もいます。そんな生き物のすみかとなる自然をのこしたほうが良いと考えました。びわ湖には二千四百種以上の生き物が生息し、しかも固有種は六十種以上います。例えば、ビワコオオナマス、ビワマス、セタシジミなどたくさんいます。もしびわ湖の一部をうめ立てるとこれらの生物のすみかがなくなり、生き物が死んでしまうかもしれません。希少な生き物が絶滅つしてしまう可能性もあります。能登川のいい

ところは生き物がたくさんいることでもあります。自然をこわすといいところをなくすので、自然をのこすことは大切だと思いました。

また、自然をこわすと景観が悪くなるという問題もあります。猪子山は能登川に住んでいない人からも人気で自然を楽しんだり、運動をしたりする場所でもあります。なくなってしまうと町の人たちのいこいの場所が少なくなってしまいます。中にはほとんど毎日登っている人もいますのでなくなったら大変だと思いました。自然はいろいろな人と関わることができる場所でもあります。実際に能登川ではいの子山や川での自然体験が多く行われています。その体験に参加することで人とふれあえるというメリットもあります。体験を行うにはそもそも自然がないといけません。能登川のいいところである、自然をのこすことは大切だと思いました。

そこで自分たちで自然を少しでものこせる取り組みを考えました。それはものを大切にすることで自然(かん境)を守ることができます。

自然をのこすということは未来に向けて大切なことです。自分たちができることを行い自然を守ることが大事です。

## 西小学校の児童会の取り組みを通して

能登川西小学校6年 中村 百々心 さん

私には、4月からがんばっていることがあります。それは、学校で毎朝しているあいさつ運動です。なぜかというと、毎朝学校前で全校みんなに大きな声であいさつすることをがんばっているからです。

わたしは、さく年も児童会に入っていて、一年間あいさつ運動をがんばりました。だから、今年もあいさつ運動をがんばりたいなと思っていました。今年は私が児童会長なので、私が代表で児童会メンバーのみんなと協力して2学期もあいさつ運動をしているところです。わたしたちがしていることは、あいさつ運動だけでなく、あいさつ運動が終わったら、校内放送でその日一番あいさつがよかった地区の発表もしています。

あいさつ運動をする中で、元気にあいさつを返してくれる人もいれば、なかなか返しにくい人もいます。どうしたらあいさつのあふれる西小学校になるかを児童会のメンバーで考えて、全校のみんなに実際にあいさつ運動に参加してもらおう「あいさつ体験」を計画しました。実際にあいさつ運動をしたら、あいさつを返してもらえるうれしさやあいさつをする気持ちよさがわかってもらえるのではないかなと考えたからです。

9月に行ったこの活動は、1年生から6年生までのたくさんの人が参加してくれて、朝の校門前が盛り上がりました。そのときに、「やってよかったな。」と思いました。

あいさつを返すのは、はずかしいと思う人もいるかもしれませんが、その人たちにもあいさつの大切さや楽しさをわかってほしいと思っています。

もう一つ、児童会で大切にしていることがあります。それは、1から6年生までのたてのつながりを大切にすることです。全校みんなが仲良くなれるといいなと思い、全校たてわり遊びを学期に1回行っています。

1学期は、全校でわなげ大会を行いました。児童会のみんなでわなげの輪を作ったり、ルールや得点を考えたりしました。司会を決めたり、初めの言葉や終わりの言葉を考えたり、賞状を作ったり、実際にするときのリハーサルをしたりしました。休み時間などを使い準備をしたので大変でしたが、当日にみんなが笑顔でわなげを楽しむ姿を見て、やりがいを感じました。

このように、西小学校では、つながりを大切にした「あいさつ運動」や「全校たてわり遊び」を行っています。これからも、みんなが笑顔で過ごせる西小学校を児童会を中心にみんなで作っていききたいです。



## あいさつで心をポカポカに

能登川南小学校6年 勝間 沙和 さん

みなさんは、だれかに「おはよう」などの挨拶をされた時、無視してしまったことはありませんか。

私は、5年生の時、近所の人に「こんにちは」と言われた時、無視してしまいました。その後、父にひどくしかられました。あいさつ一つで人の気持ちはそんなに変わるものなのでしょうか。私は、その時、そんな風にとても疑問に思っていました。

6年生になり、私はあいさつはお手本のためだと思いつつ、あいさつをしていました。でも、「おはようございます」と、毎日あいさつをしているうちにだんだんと、あいさつはお手本のためではなく、自分のためだと思うようになりました。

あいさつをすると、心の底からポカポカしてきます。それが自分のためだと気付けたことは、自分の中での大きな変化でした。

ある日、私は通りかかった人に、「おはようございます。」とあいさつをしました。すると、その人は、ちらっと私を見ると、まるで挨拶をされていなかったかのように通り過ぎてしまいました。あいさつをした時の心の底からポカポカした気持ちが悲しくなりました。この時私は、無視をされるとこんな気持ちになるんだということに気付き、5年生までの私の行動が悲しくて仕方ありませんでした。

そして、この体験から、これからは、あいさつをし

かりしようと固い決意をしました。それから、先生や友達にはもちろん、近所の人やボランティアの人、お店の人などにあいさつをするようになりました。

ある時、わたしは「気持ちをこめてあいさつを！」というポスターを見かけました。

「気持ちをこめて・・・。」

私はその言葉を頭の中でくり返しました。私は、気持ちをこめてあいさつができているだろうか。ただ、あいさつをしているだけではないのだろうか。私は、当たり前のようにあいさつをするうちに、気持ちをこめるということを忘れていたのです。気持ちをこめてあいさつをするともっと心がポカポカになるだろうと思いい、それからは気持ちをこめてあいさつをするようになりました。

私は、明るい社会にするために、みんながあいさつを響かせるといいと思います。そして、あいさつは自分のために、気持ちをこめてすることが最も良いと思います。また、あいさつには、「おはようございます」や「こんにちは」だけでなく、「ありがとう」「ごめんなさい」など気持ちを伝えるものや「ただいま」「おかえり」などと色いろなものがあります。その時に合った、気持ちのこもったあいさつができる私になりたいです。

だれか一人が気持ちよいあいさつをしていたら、みんなも真似をしたいと思います。なので、あいさつで心をポカポカにして、犯罪や非行、いじめはなくなると思っています。これからも、進んであいさつをしていきたいです。

## ウクライナとロシアの戦争について

能登川北小学校6年 吉備 伊臣 さん

ウクライナとロシアの戦争について、みなさんはどう思いますか？ぼくが正直に思ったことは、「人が死ぬことはいやだ、戦争をしてもいいことはない。」ということです。

ロシアがウクライナにしんこうを始めてもう一年半がたちました。日本でもいろいろな物の値段が上がったり、何よりたくさんのお金の命が奪われたりしていると聞いて、本当におそろしいです。

では、いったいなぜ戦争がおこることになったのか。この戦争の発端となったのは、おう州連合との結びつきを強化するための連合協定にウクライナが入ることをロシア政府がじゃまをしたので、ウクライナの国民がデモをおこしたことです。しかし、ウクライナ東部は、ロシアの支配下に入っており、そこに住む住民たちは今も生活をおびやかされています。そうしてロシアによる支配はウクライナ全土に広がり、ロシアの身勝手な理由で始まった戦争は一年半も続いているのです。そしてこの戦争がいつ終わるのか全く見通しが

たっていません。

このウクライナ戦争についてぼくが思ったことは二つあります。

一つ目は、「人が死ぬのはいやだ」ということです。実際に死んでしまった人の数は、ウクライナ・ロシアともに数千人以上いるそうです。けがをした人は、もっとたくさんいるそうです。ウクライナで死んだ人の中には18才未満の子どももいたと聞きました。こんなにたくさんの犠牲者がいると聞いておどろきました。ぼくは戦争での犠牲者はもう出てほしくないです。

二つ目は、税金や物の値段などがどんどん上がっていて、たくさんのお金が困ってしまうということです。最近では、値上げに関するニュースをたくさん耳にします。特に戦争に影響のある物の値段はどんどんあがっています。この戦争が終われば、いろいろな物の値段も少しずつ下がっていくと思うので、早く戦争が終わって平和な時代に戻ってほしいです。そのために、ぼくはまずは戦争のことを知ること、そして足りないものがあって生活が苦しい人のために募金や寄付をしたりすることから少しずつ始めたいです。



## 生徒会執行部としての一年半

能登川高等学校2年 中嶋 彩乃さん

私は、高校生になってからの約一年半、生徒会執行部の一員として活動しています。1年の文化祭の時から、司会や合唱の誘導など沢山の仕事を経験し、3年生の先輩方から、期待の声ももらっていました。

文化祭が終わったあとは、10月の体育祭。その時も、私を中心として司会をつとめました。実は、体育祭の時点で、私は、毎年10月末に行われる生徒会選挙で、1年生ながら、代議員議長に立候補していました。何人かの先輩から、『彩乃ちゃん、仕事がんばってるし、コミュニケーション能力も抜群だしやってみたら?』とあとおしがあり、思い切って立候補してみました。正直、信任されると思っておらず、自信を持っていませんでしたが、信任と放送されて、涙するほど嬉しい気持ちでいっぱいになりました。これから一年間がんばろう!とっていた矢先、友人関係の悩みなどがきっかけで、精神的にしんどくなってしまいました。その上、先生からは、『他の執行部員にも司会の練習をさせたいから、しばらく司会をするのを控えてくれないか?』と言われてしまいました。これまで、司会をすることが、大好きで、これからもやるぞ!とっていた私にとって、控えることは、とてもしんどいことでした。そして、その頃まで、先輩方からもらっていた期待も、いつのまにか”プレッシャー”となり、イライラする日が多くなっていきました。それが原因で、顧問の先生や当時2年生だった先輩方との意見の食い違いから衝突することがあり、生徒会を辞めたい…とまで考えました。ですが、その時の感情で決めるのも、後悔してしまうので、何度も、3年生の先輩に相談しました。たくさん悩みましたが、まだ私には、議長としての責任がある。ここでやめるわけにはいかない!と思い、やめずに踏ん張りました。

2年生になり、1年生の時は、先輩にたくさん甘えさせてもらって辛い時は泣かせてもらいましたが、新入生を迎え、絶対泣かない!と決めました。そして、

毎年4月末に行われる代議員議長にとって、一番大きな仕事、生徒総会が一週間後に控えていました。その頃私は、今までのこともあり、すごくネガティブになっていて、私が生徒会にいる意味はなんだろう?私は、先生や先輩から信頼してもらっているのか?全校生徒の前に立つのが怖い…色々なモヤモヤに悩まされていました。そこで、今年度から新しく顧問になった先生に相談をしました。すると、中嶋、どんな職業でも実績残してたり、サボらずしっかり仕事をする人に最後は、仕事がまわってくる。『中嶋は、あいさつ運動も、生徒会もしっかりきて、仕事をしてる。それだけちゃんとやってる人を私らが信頼しない訳がない。中嶋の気持ちは、みんなわかってきている。ちゃんと信頼はあるから自信を持ち。』と言って下さいました。私はその言葉に、ふっと肩の荷が下りて、久しぶりに泣いてしまいました。それほど議長になってからの半年は、自分でも気づかぬうちに重圧にたえていたんだなとも感じました。私は、その時ほど、生徒会を続けていてよかったと思った日は、無いと思います。その一週間後の生徒総会本番は、今までで一番手応えのある仕事で、楽しいと感じました。それから私は、高校生活で2回目の文化祭で、1・2・3年生、生徒会執行部の中で誰よりも多く仕事をもらっています。その分、自分の時間はほとんどありませんでしたが、これもこれで楽しい青春だ!とポジティブに考えられるようにもなりました。そして先日の体育祭では、メインとなる仕事は、終盤に少しだけしかありませんでしたが、競技中の私は、色々な先生方から頼まれた仕事をこなすために、何度もグラウンド中を駆け回っていました。それは、先生方からの信頼があってこそだと感じて、自信を持ち直しました。私は、この一年半で、しんどい時でも踏ん張って努力することの大切さ、仲間のことはもちろん、自分を信じることの大切さを学びました。これからも、自分を信じながら、生徒会執行部の一員として努力と笑顔を忘れず生徒会に中嶋がいて良かったと言ってもらえるように頑張りたいです。

[ 作文は原文のまま掲載・順不同 ]

## 滋賀県警察本部長・滋賀県防犯協会長 連名表彰(感謝状)

令和5年10月7日(土)あいこうか市民ホール(甲賀市)にて、令和5年度「なくそう犯罪」滋賀県安全なまちづくり県民大会が開催され当支部から下記の団体が表彰されました。

### 防犯功労団体 能登川南小学校区地域教育協議会

平成17年から現在に至るまで、「こども110番の家・訪問ふれあいウォーク」の活動において、地域安全活動を推進され地域住民の防犯意識の高揚並びに生活の安全と平穩の確保に多大の貢献をされました。



活動の様子(平成29年)





# 令和5年度「あいさつ運動」啓発ポスター入賞者

順不同

## 最優秀賞



3年生  
横田 葵さん

## 優秀賞



3年生  
松下 楓羽さん



3年生  
大久保 心晴さん



3年生  
山本 優衣さん

## 入賞



3年生  
西村 菜花さん



3年生  
追川 心春さん



3年生  
澤井 日和さん



3年生  
出口 美緒さん



3年生  
奥 彩香さん



3年生  
清水 陽穂さん

## 奨励賞



3年生  
織田 実里さん



3年生  
落合 美月さん



3年生  
小見山 里愛さん



3年生  
森野 瑠奈さん



2年生  
伊藤 結衣さん



2年生  
久保田 悠楓さん



2年生  
西村 くるみさん



1年生  
阪田 ひかりさん



1年生  
奥村 愛さん



1年生  
山本 真衣さん

※最優秀賞作品は、啓発ポスター用に印刷し各自治会の掲示板等に掲示しています。

【お問合せ】 東近江市青少年育成市民会議 能登川支部 事務局 (能登川コミュニティセンター内) TEL. 0748-42-3200 IP. 050-5801-3200